

遠軽町・佐呂間町・湧別町

あなたの暮らしをサポートする生涯学習情報紙

なな・なんと情報

編集・発行

遠軽地区教育委員会協議会

令和2年4月1日発行

4月～6月開催分 第127号

4月のイベント

雨宮 21 号も汽笛でお出迎え…丸瀬布森林公園いこいの森 4/29 OPEN

■開園式…4月29日(水) 10時～

※開園式終了後、雨宮21号が運行します

■問い合わせ先…丸瀬布総合支所産業課 (Tel0158-47-2213)

北海道遺産 森林鉄道蒸気機関車「雨宮(あめみや) 21号」の運行がスタートします。いこいの森では、道内屈指の人気を集める「キャンプ場」や、「軌道用自転車(トロッコ)」をはじめ、愛犬家の為に「ドッグラン」も整備!! 釣り好きの皆さんには、園内を流れる川で溪流釣りも楽しめます。さあ、今年のGWも「森林公園いこいの森」で春の一時を満喫してみてください。



ファミリー愛ランドYOU 4/29 OPEN

■開園期間…4月29日(水)～10月12日(月)

9時30分～17時

※9月23日(水)以降は16時まで

■休園日…月曜日及び祝日の翌日

※4月29日～5月6日のGW期間は無休。

■住所…湧別町志撫子 道の駅愛ランド湧別併設

■料金…遊具乗り放題券 1,600円(3歳以上)

※回数券もあります。

■問い合わせ先…ファミリー愛ランドYOU

(Tel01586-8-2450)



サイクルモノレール、グレートポセイドン、観覧車やゴカートなど小さいお子様から大人まで楽しめるアトラクションがたくさん揃っています。

遠軽町埋蔵文化財センター

■開館時間…9時～17時

■休館日…5月～10月：無休(今年は4月30日から無休)

11月～4月：土曜日・日曜日・祝日・年末年始

■入館料…一般320円、高校生以下160円、幼児無料

■住所…遠軽町白滝138番地1(白滝総合支所併設)

■問い合わせ先…埋蔵文化財センター (Tel0158-48-2213)

北海道に人類が住みはじめた頃(約3万年前)の石器を見ることができ、黒曜石で石器をつくる工程がわかります。「石器」や「まが玉」など色々な体験ができます。(有料)

5月2日～5月6日は、GWイベントを開催予定です。

<http://geopark.engaru.jp/> 「白滝ジオパーク」で検索!



5月のイベント

2020 かみゆうべつチューリップフェア

- 日 時…5月1日(金)～6月上旬 ※開花状況により変動あり 8時～18時：入園は17時30分まで
- 会 場…湧別町かみゆうべつチューリップ公園(湧別町上湧別屯田市街地)
- 入場料…大人：600円(500円) 小人：300円(250円)
※()内は10人以上の団体割引
シーズン券 大人：1,000円 小人：500円
- 問い合わせ先…湧別町観光協会(Tel01586-8-7356)

7haの広大な畑におよそ200品種、70万本の鮮やかなチューリップが一面に咲き誇る景色はまさに絶景です。毎年人気の園内を巡るガイド付きの電動バス(大人300円)の運行、チューリップの掘取体験販売を行います。最盛期の週末には各種イベントを用意。開花状況は公式ホームページからご確認ください。

<http://www.town.yubetsu.lg.jp/tulippark>



6月のイベント

第48回 まるせっぴ藤まつり

- 日 時…6月7日(日) 10時～15時
- 会 場…丸瀬布弘政寺・平和山公園
- 入場料…無料
- 問い合わせ先…丸瀬布総合支所 産業課
(Tel0158-47-2213)

今年で48回目を迎えるまるせっぴ藤まつり。著名人によるステージショーをはじめ、「遠軽高校吹奏楽局演奏会」、丸瀬布地域の特産物を山ほど提供「ドキドキ抽選会」などなど…。また、あたり一面に咲き乱れる藤のほのかな香りを楽しみながらの「野だて」など内容も盛り沢山!! 咲き競う、約200株の藤の花の競演もお見逃しなく!!



第35回サロマ湖100kmウルトラマラソン

- 日 時…6月28日(日)
- 会 場…100kmの部：湧別町～北見市
50kmの部：佐呂間町～北見市
- 申込み…※参加申込みは締め切りしました
- 問い合わせ先…湧別町教育委員会(Tel01586-5-3132)
佐呂間町教育委員会(Tel01587-2-1295)

今年も4,000人以上のランナーがゴールの地、北見市常呂町スポーツセンターを目指して走ります。100kmの部は午前5時湧別総合体育館をスタート、50kmの部は午前10時佐呂間町100年広場をスタートします。たくさんの応援をお待ちしています!



～特集記事～ 遠軽地区の開拓

それぞれの町では当時どのような開拓の苦労があったのか、特徴的な出来事や当時の様子を掲載していきます。第3回目は遠軽町生田原及び白滝について、2人の人物を紹介した記事です。

遠軽町生田原 ～野口英世の父～

開拓時代の生田原にはこのような人も住んでいた記録があるので、皆さんにご紹介します。

現在の千円札の肖像画は「野口英世（1876年～1928年）」だということは皆さんご存知だと思います。

その英世の「父親（野口佐代助 1851年～1923年）」が生田原八重地区に3年ほど住んでいたことがあるとのことです。

英世の伝記等で母親については語られることが多いですが、父親のことについては、あまり語られることは無いようですが、かつて、英世の父親のことを知っている方（故Mさん）から聞き取った音声から書き起こした資料をもとにご紹介します。

○野口英世の父が生田原に住んだ話（故Mさんからの話から抜粋、読みやすく修正してあります。）

年代は不明だが、生田原八重地区にムラカミと言う人が会津若松から北海道の開拓に来て、そこにホンマという人も入植したが、その人は三年住んで、とても駄目だと言って戻って行った。

そのホンマという人と一緒に英世の父親が来ていた。英世の母は産婆をしており、英世の父は酒癖が悪く、酒を飲んだら英世の母をいじめるので、ホンマという人が北海道に行くなら、英世の父も連れて行ってくれということで、一緒に連れてこられた。そして、私（M氏）の土地に入る入り口に掘って小屋を建てて三年間暮らした。でも、ホンマという人も開墾は難しく、三年で会津へ帰るので一緒に帰った。

父親は、英世がアメリカから自分に一ヶ月に三円ずつ毎月お金を送ってきたと言っていた。

M氏のじいさん、ばあさん（原文のまま、M氏の父母なのか祖父母なのかは不明）が毎日のようにワラジやソウリ作りするところに、英世の父も来て一緒に作ったりしたが三年で帰ってしまった。

という記録が残っています。しかし、この話をいつ頃収録したのか、野口英世の父親が生田原に住んだ掘って立て小屋の場所は残念ながら未確認となっています。

遠軽町白滝 ～白滝王と呼ばれた植芝盛平～

植芝盛平は、明治13年12月14日、和歌山県西牟婁郡西ノ谷村（現在の田辺市）の裕福な農家の長男として生まれた。幼少期は病弱で、読書や物理、数学を好む内向的な性格だった。

そんな盛平少年を見かねた父与六は、朝早くに祠巡りに同行させたり、漁師の子供と相撲をとらせたりと手を尽した。そんな父の努力もあり、盛平少年は負けん気の強い活発な少年に成長していった。小学校を卒業して中学校へ進学するが、一年足らずで中退。その後、吉田珠算研究所へ通い、もともと数理的なことが得意だった盛平は才能発揮、わずか一年足らずのうちに代教を務めるまでになり、研究所を優秀な成績でおえた後、税務署に乞われて勤務することとなった。

税務署では一般的な徴税業務ではなく、地価の修正、土地測量、製酒量検査といった課税対象の査定や時価の算出などの計数的な仕事をしてきた。ある日たまたま東京からやって来た税務官に「東京へ出て来ないか？」と誘われるほど高く評価されていたが、ある事件をきっかけに盛平の人生は目まぐるしく変わっていくことになる。

明治34年に施行された漁業法。この法律により漁獲の規制や許認可が義務付けられ、今まで以上の課税が行われるという内容で、罰則内容も過酷なもので、田辺湾沿岸の漁民に大きな不安を与えるものだった。盛平は、零細漁民に予測される窮状を救いたいという義侠心と、公官吏や漁業関係のボスたちが利権を手にしようという義憤もあり、税務署員としての立場を捨て反対運動に参加した。

こうした運動もむなしく、後に「磯事件」といわれる騒動は公権力によってねじ伏せられ、明治35年単身で上京、住み込み奉公や商品の売り込みを経て、文房具や学用品の仕入れや販売を行う「植芝商会」という小さな店を出した。商売も軌道に乗りはじめ、従業員を雇うことができるようになったが、商人としての未来を描けずにいた。そんな生活も程なくし、盛平はひどい脚気に見舞われた。おそらく、東京での慣れない生活や過労から体調を崩したのだろう。

そして、徴兵検査も迫ってきたこともあり、再び故郷へ戻ることを決意した。故郷へ戻った盛平は徴兵検査を受けるが、身長不足により不合格。合格の最低基準が五尺二寸（157cm前後）に対し五尺一寸五分（155～6cm）足らずであった。この後、再検査を志願し、軍隊入りを認められ、軍人として日露戦争に従軍、終戦後しばらく務めたのち除隊した。

田辺出身の屯田兵、倉橋伝三郎が北海道から帰郷。北海道の魅力を聞かされ大いに魅了され、間もなく、北の未開拓地への団結移住計画のすすめが公布された。

移住に先立ち盛平は、明治43年春に、倉橋とともに下見聞の旅に出ている。この時、石狩地区、十勝地区を見てまわり、北見地区、その頃湧別村と呼ばれていた白滝に足を踏み込んだ。そしてこの地へ移住することを決心した。その理由とは・・・

- ・中央道路沿いにあり、小半日で行ける遠軽が近くにあった
- ・湧別川や支湧別川があり、水質がきわめて良かった
- ・エゾ松、トド松、ヤチダモ、アカダモ等、製材に適した原始林に囲まれていた

こうして明治45年3月29日、和歌山を後にした紀州団体は、汽車で旭川を通り、比布にて同じ紀州から来ていた愛別の岩井農場の迎えを受け、愛別駅通、九号駅通などの世話になり、5月20日頃現地に入地した。この間、最も過酷だったのが北見峠を越える行程だった。

当時を知る人の回想によると・・・「はじめ峠にきたとき電柱が針金だけしか見えず、北海道の電柱はこんなに低いのかと思った。それだけ雪が深く、道をつけてもすぐ吹雪で埋まり、いつ着くか皆目わからない状態だった。そのため雪そりを土方に作ってもらい荷物を運び、また背負いながら頂上に着き、朝方に固雪を利用して頂上から荷物を転がし、人は杖をついて降りてきた。女の人は二人で棒で味噌や醤油を担ぎながら、途中で転がるなど死にもの狂いであった。そして到着したのが5月20日頃であるから、峠だけを越えるのに、実に1ヶ月余も過ごしたことになる。この年は作物も馬鈴薯以外は何もとれなかった」

「白滝王」植芝盛平・・・数々の困難を乗り越え、白滝へ入植した紀州団体55戸。最初の3年は大きな災難に見舞われた。1年目（明治45～大正元年）、伐木開墾に従事。馬鈴薯の栽培を知らず、穀類を作り不作。伐木の山稼ぎにより米麦を購入。あとは自生の山ゴボウ、フキ、ワラビ、ゼンマイ、および馬の尻尾に付着して移生してきたゴマの身、ヤマベ、イワナなどの川魚を食す。2年目（大正2年）、全道的な春先からの低温と、8月の暴風雨、9月上旬の早霜など、未曾有の大凶作により不作、困窮。3年目（大正3年）、引き続き不作、困窮。

このとき盛平は、道庁や紋別郡役所に働きかけ救済補償を取り付けるなど、身を粉にして奮闘。その傍ら、伐木開墾を率先して行うなど超人的な活躍をし、定住の見通しが見えてきた。やがて造材事業が景気を後押しする形で白滝全体が活性化。入植から大正7年までの間に、白滝の戸数は532戸にまで増加した。

盛平が手がけたとされるものはほかに・・・ハッカ栽培、馬産、酪農振興、小学校開設、商店街づくり、衛生組合設立、上白滝神社建設など。

また、監獄部屋に売り込まれた青年を助けるなどの逸話は数え切れないほど存在し、当時の新聞にも大きく紹介されたほどだった。それ以降人々は、盛平を「白滝王」と尊称するようになった。大正7年、上湧別村第五回村会議員選挙において、白滝初の議会議員として当選。こうして名実ともに白滝を代表する存在となったが、ここでまた、大きな転機が訪れた。

チチキトク・・・大正8年末、盛平の留守中に故郷から「チチキトク」の電報が届いた。かけがえのない父が危篤の床にあると知った盛平は故郷に戻るが、京都に着き田辺へと戻る船に乗らず、鉄道に乗り綾部へと向かった。その理由は、綾部に本拠地を構える大本教という新宗教のもとで危篤の父の平癒をお祈りしてもらうためだった。こうして3日間を祈禱に費やし、故郷へ戻ったのは年が明けた大正9年1月4日のこと。しかし、その前々日にあたる1月2日、父与六は76歳でこの世を去っていた。父の死後、盛平は白滝に戻らず、家族を引き連れて綾部に移住。白滝の開拓に尽力した約8年間に幕を下ろした。

合気の道へ・・・綾部で盛平は、大本教の出口王仁三郎という宗教家の近侍として迎えられ、身のまわりの世話や雑務、来客の際には同席するなど高い信頼を置かれ、さらには道場を開くよう勧められた。こうして、自宅の一部を改造し「植芝塾」道場を開設。武術家として確かな一歩を踏み出すことになった。

盛平が武術を志すきっかけは、東京時代へと遡る。生活に少しゆとりができ、ふと「武術でも習ってみたい」と柔術や剣術を学び、性に合わない商売への鬱屈も晴らそうとした。

盛平を語る上で最も重要な出来事の一つとして挙げられるのは、大正4年、所用で遠軽に宿泊していたとき旅館で偶然に出会った、武田惣角である。

なな・なんと情報に掲載希望の情報を募集いたします。遠軽地区全体にお知らせしたい情報がありましたら各町教育委員会（教育センター）までご連絡ください。発行は偶数月で年6回を予定しています。ただし、営利・宗教・政治を目的としたものは掲載できません。また紙面の都合上、掲載できない場合もありますので、ご了承ください。

- ☆湧別町教育委員会……………Tel01586-5-3132
- ☆佐呂間町教育委員会……………Tel01587-2-1295
- ☆遠軽町教育委員会……………Tel0158-42-2191
- ☆遠軽町生田原教育センター…Tel0158-45-2010
- ☆遠軽町丸瀬布教育センター…Tel0158-47-2456
- ☆遠軽町白滝教育センター……Tel0158-48-2213

※この情報紙に関することは、各教育委員会（教育センター）へお問い合わせください。

■総合窓口：メールアドレス shakyo@town.yubetsu.lg.jp （担当/湧別町教育委員会）

